



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

アフガニスタン：ロヤ・ジルガが米国との安全保障協定を承認（報道まとめ）

11月24日、アフガニスタンのロヤ・ジルガ（国民大会議）は、米国との安全保障協定に署名することを承認した。同会議は、21日からカブールで開催されていた。署名の時期についてはまだ確定しておらず、ロヤ・ジルガは2013年内の署名を勧告したが、カルザイ大統領は2014年4月の大統領選挙後を主張した。米国のケリー国務長官は、早期の署名を求めている。24日、ターリバンは、外国軍の撤退まで戦うと声明した。

米国とアフガニスタンの安全保障協定は、2015年以降もアフガニスタンに駐留を継続する米軍の取り扱いについて規定するもので、10月12日、ケリー国務長官がアフガニスタンを訪問してカルザイ大統領と会談し、大枠で合意が成立していた。同合意後、ロヤ・ジルガの開催が決定されていた。

次期大統領選挙の動き

アフガニスタンの今後の動きで内政的に重要なのが次期大統領選挙である。2012年10月末、アフガニスタンは、次期大統領選挙を2014年4月5日に実施することを決定していた。2013年5月25日から有権者登録が開始された。カルザイ大統領（2009年11月再選）は、8月13日、大統領の3選を禁止する規定に従い、任期満了で大統領を退くことを表明した。10月6日で終了した大統領選挙の立候補届出期間中に、27人が立候補を申請した。選挙管理委員会は届出書類の審査を行い、11月20日に、11人の立候補を認めている。

（中島主席研究員）